



## 体育大会 “仲間との絆” は深められましたか？

### ◎10月17日(金) 体育大会 活気あふれる素晴らしい大会でした！

心配した雨も上がり、PTAや常盤地区・光明地区の連合町会のご来賓のみなさんやたくさんの保護者のみなさんが見守る中、第46回体育大会を無事終えることができました。

今年の体育大会は昨年以上に、開会式、閉会式の司会進行、競技の準備・召集やスタートの雷管・道具の整備・撤収、放送の司会や中継アナウンスなど生徒が主体的に運営をしました。前日までに2回の係会議をして予行で綿密な打ち合わせをし、当日はてきぱきとそれが的確に動いて運営してくれました。生徒会の実況中継も大いに協議を盛り上げてくれました。9月から体育や総合の授業だけでなく、学年ごとに決められた日に朝練習をして、それぞれの競技の練習をクラスのみんなと一緒に頑張った成果だと思います。来賓の方々からも、たくさん賞賛の言葉をいただきました。勝ち負けだけにこだわらず、最後まで全力でやりきる姿が感動的でした。ありがとう！



## ◎9月29日(月) 第75回“社会を明るくする運動”作文コンテスト表彰式

今年度は岸和田市内から256人の小学生と542人の中学生が作品を寄せました。その中から小学生4作品と中学生4作品を入賞作品として表彰されました。桜台中学校の2年生のさんが市長賞、1年生のさんが教育長賞を受賞しました。裏面に作文を紹介していますので、読んでください。

## ◎10月 岸和田市文化祭

10月1~3日 習字作品展、10月8~10日 科学作品展、10月22~24日 図画・美術作品展がマドカホールで開催されました。夏休み中にみんなが取り組んだ作品の中から選ばれた作品がたくさん展示されていました。様々な工夫を重ねた力作が多かったです。



## ◎10月20日(火) 更生保護女性会のみなさんの挨拶運動

急に寒くなり12月の気温になったにもかかわらず、早朝より地域の更生保護女性会のみなさんがいさつ運動にきてくれました。気づいていざつを返してくれる人がたくさんいて、心が温かくなりました。

## ◎10月22日(水) LGBT+研修

今年も元養護教諭の井上鈴佳先生に来ていただき、1年生に性の多様性についてお話ををしていただきました。性のあり方は多様で「身体の性」「性自認」「性的指向」「性的表現」などさまざまな側面があり、全ての人に関わるということや、LGBTをはじめ性的マイノリティのあり方は本当に多様で「+」をつけて表現しています。ご自身が24歳まで気づけなかったのは学生の間に学ぶ機会がなかったことが原因で、少しでも早く知ってほしいことと、たくさんの人に正しく理解してもらい誰もが安心して生きていける社会や学校になってほしいという願いをお話してくれました。放課後は、教職員に研修をしていただきました。



## 第75回『社会を明るくする運動』作文コンテスト

### 市長賞（中学生の部）

「立ち直る力」 岸和田市立桜台中学校 2年

私は、少年が万引きをして捕まつたというニュースを見たことがあります。

そのようなニュースを見るたびに、「なんでそんなことをしてしまつたんやろ?」と疑問に思うことがあります。たしかに犯罪や非行を犯した人は間違っています。しかし、ある時、私は「犯した罪を償いそこから立ち直ることはできるのか?」ということについて考え始めました。そして、それに対する答えを探す中で、私は「立ち直る力」を持つ人々の存在を知り、自分の考

えが少しづつ変わつていつたのです。

あるテレビで、少年院に入つていた人たちが出てきました。その人たちは自分のしたことを反省し、今は働いているという話がありました。その人は、昔、家族とうまいかず、学校でいじめられていたそうです。居場所がなく、悪い友達に誘われて、犯罪に手を出してしまつたと話していました。でも、少年院で出会つた先生やカウンセラー、ボランティアの人たちと心を通わせる中で、彼は反省の気持ちを強く抱くようになり、先生からの「君にも未来がある」という励ましの言葉で、自分を変えようと思つたそうです。そのテレビを見て私は、悪いことをしたからといって、その人が一生悪い人というわけではないと知りました。むしろ、反省して、頑張つて生き直している人たちはすごいと思います。そして、そういう人を信じて応援する人がいることも、とても心に残りました。

私たちが生活する学校も小さな社会を形成しています。そこで嫌なことをしたり、悪口を言つたりして、相手を嫌な気持ちにしてしまう人もいます。その時に嫌な思いをした人だけでなく、嫌なことをしてしまつた人に

も声をかけていく必要があるのではないかと思いました。

私は最近SNSで、「社会を明るくする運動」という言葉を知りました。

これは、犯罪や非行した人が立ち直れるように、地域の人たちが支える運動です。私は最初、「犯罪を犯した人を助けるん?」と思いました。でも、立ち直りを応援することで繰り返さないようにできるし、その人も幸せになれるんだとわかりました。そうなれば、みんなが安心して暮らせる社会になると思います。

最後に私はこう考えました。立ち直ろうと頑張つている人がいたら、「どうせまた悪いことをする」と思うのではなく、「きっと変われる」と信じてあげることが大切だと考えました。そしてあいさつをしたり、話しかけたり、ちょっとしたことで応援できると思います。自分がされたら嬉しいことを、誰かにしてあげられる人になりたいです。

社会を明るくするということは、決して特別なことではないです。ひとりひとりの優しさや思いやりの積み重ねなのだと思います。私も、誰かの立ち直りの力になれるような人になりたいし、そういう人が増える社会をつくりたいと思います。そしてその希望を実現するためには、社会全体が一丸となつて立ち直りを支えることが必要だと感じています。



## 教育長賞（中学生の部）

「コトバ」

岸和田市立桜台中学校 1年

「コトバ」というのは、たった一瞬で、たった一言で大きな問題を引き起こしてしまった驚異的な凶器です。僕達みんなが、「コトバ」という凶器を持つています。そう考えると自分自身、知り合いや家族から恐怖を感じることができます。

例えば友達や兄弟とゲームをしていて、負けたり、結果が悪かったりすると呴嗟に「だる」や「キッショ」などを、口に出してしまいます。友達や兄弟に言つたつもりではなく、ゲームに向かつて言つた「コトバ」だけれど、知らず知らずのうちに勘違いをさせてしまって、傷つけているかもしれません。僕も、逆の立場になつて考えると、自分に向かつて言つていると思って、「ドキツ」となると思います。

ニュースを見ていると、この世の中には、コトバによる深刻な問題がたくさん起きています。例えば、SNSでグループの仲間外れがあり、見えないところで洒落にならないほどの「コトバ」の暴力を受け、仲間はずれにされた人が自殺したという事件をみました。「コトバ」によるいじめによって不登校になってしまった人がいるということも聞きました。その人たちをいじめていた人はとても許せません。自分では冗談や軽い気持ちのつもりで言つても、相手はその何十倍、何百倍、と重く感じ、とても怖いと思います。

このことから、「コトバ」は人の命を奪つてしまふかもしれない恐ろしい存在だと思います。

しかし、「コトバ」を正しく使えば、誰もが充実した毎日を過ごせると思います。

ある日の夕食時、お母さんが作ったごはんを食べ、「美味しいすぎてコレ売れるで!」と言つたら、お母さんは「そんなことはないわ」と言つていましたが、いつもよりあきらかに表情は嬉しそうで、喜んでいました。

お母さんの喜んでいる姿を見ると、僕も嬉しい気持ちになりました。「コトバ」は褒めた人も、褒められた人も嬉しい気持ちになるんだと思いました。

また、野球部の練習中で、自分がエラーをしてしまったとき、「次は行けよ!」や「ナイスチャレンジ!」など、先輩や同期からのたつた一言でとても安心できることもあります。すぐに切り替えることができました。それは、スポーツだけではなく勉強中でも、目標に向かつて取り組んでいるときに、「がんばってるなあ」の一言で僕は勉強意欲がより湧いてきて、もっとやろう!という気持ちになります。「コトバ」で元気を出したり、勇気が出たりします。

僕は、「コトバ」は心に傷をつけたり、幸福を与えたりすることができる、良くも、悪くもない存在だと思います。一人一人が良く考えて「コトバ」を使い、みんなが幸せになればいいなと思います。

世の中の人々が、相手の気持ち、心を思い合つた「コトバ」を使い、いじめや「コトバ」の暴力が無くなつて欲しいと思います。

僕自身も日頃の言葉遣いを改めようと思いました。そして友達や家族が困ついたら、声をかける、話を聞く、を実行しようと強く思います。なるべくラインやSNSではなく、面と向かつて、対面でちゃんと顔を見てコトバを交わしたいなと思います。

